

## 平成 30 年度 食品の安全性に関する有害微生物の サーベイランス・モニタリング年次計画

サーベイランス及びモニタリングの実施に当たって、微生物リスク管理基礎調査事業により分析を委託する場合は、分析結果の信頼性を確保するため、精度管理を行うことや ISO (International Organization for Standardization) 法などの妥当性が確認された分析法を用いること等を条件として競争入札を行い、分析機関を選定する。

### サーベイランス

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	予定調査点数
サルモネラ、腸管出血性大腸菌	スプラウト <sup>1</sup> の安全性を向上させるさらなる措置の必要性を検討するため、 ・スプラウトに関する有害微生物の汚染実態を把握。 ・生産施設における「スプラウト生産における衛生管理指針」(平成 27 年 9 月 4 日付け消安第 3188 号農林水産省消費・安全局長通知)に基づく衛生管理の取組状況を把握。 ・「スプラウト生産における衛生管理指針」の効果を検証。	出荷前のスプラウト	計 900
		原料種子等	
		施設の環境試料 (施設・設備の拭き取り試料等)	
有害微生物	調査事業で得られた菌株及びウイルス遺伝子を解析し、性状を把握。	調査事業で得られた菌株及びウイルス遺伝子	1,000

<sup>1</sup> 主に穀類、豆類、野菜の種子を人為的に発芽させた新芽で、発芽した芽と茎を食用とするもの。

その他の調査(事業者と連携して、リスク管理措置案の検討等のために行う調査)

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	予定調査点数
カンピロバクター、サルモネラ	生産加工会社と連携し、農場の肉用鶏群 <sup>1</sup> のカンピロバクター及びサルモネラ低減対策(飲用水の消毒、空舎時の管理等)の有効性を検討。	新鮮盲腸便	計 1,200
		環境試料 (飲用水、鶏舎拭き取り等)	
サルモネラ	採卵鶏農場と連携し、定期的に鶏群のサルモネラ保有状況及び農場の飼養衛生管理の状況を把握。 採卵鶏群のサルモネラ感染に影響する要因を解明。	新鮮盲腸便又は新鮮糞便	計 200
		環境試料 (鶏舎塵埃)	
ノロウイルス	海域情報(海水温、降水量等)を利用した二枚貝のノロウイルス汚染低減対策を検討するため、カキ中のノロウイルス汚染状況を把握。	カキ	500
ノロウイルス	検討中のカキ中のノロウイルス試験法を用いて、信頼性の高いデータを得る際に必要な操作上の留意点を把握 <sup>2</sup> 。	カキ	200

<sup>1</sup> 同一鶏舎で飼育され、同日に出荷される鶏の単位。

<sup>2</sup> 参加希望機関を募り、実技研修を全3回(1回あたりの参加者は15名程度を想定)実施する予定。